

自己評価結果公表シート（平成 24 年度）

1. 学校の教育目標

健康生活と明朗なる自主独立の精神を養うとともに創造的態度を培います

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ① 一人一人の自主性をのばす（個人に合った保育）
- ② お友達と仲良く遊べる子ども（ルールを知る）
- ③ 生きる力、良いことと悪いことが自分で気づく子ども（育ち合う心）
- ④ 情緒が豊かで創造力が育つ力を培う
- ⑤ 遊びを通して、自ら危険なことに気づき、守れるようになる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
① 一人一人の自主性をのばす （個人に合った保育）	B	更に上位の評価ができるよう今後努力していく。
② お友達と仲良く遊べる子ども （ルールを知る）	B	更に上位の評価ができるよう今後努力していく。
③ 生きる力、良いことと悪いこと が自分で気づく子ども （育ち合う心）	B	更に上位の評価ができるよう今後努力していく。
④ 情緒が豊かで創造力が育つ力を 培う	C	すばらしい創造力を発揮する子どもも見られるが、全体をと おして、就学前の発達段階でもあるので、将来に成果がみ られると考えます。現段階では評価が難しい。
⑤ 遊びを通して、自ら危険なこと に気づき、守れるようになる。	C	昨年同様手をつかずに転ぶ子どもが多くみられ、おでこの 怪我が目立つ。よく周りを見渡すなど更に指導していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	全体的な取り組みや職員間の意識改革は進んでいるが、配慮を要する子どもたちへの支援などには課題が多くみうけられる。一人一人の成長を把握しながら引き続き日々の保育に繋げていく努力をしていく。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自閉症やアスペルガー症候群などの発達障害の子どもにどう向き合うべきか	<ul style="list-style-type: none"> ・ キンダーカウンセラーの導入 ・ 職員の研修会参加（市・府子育て相談員研修会参加等） ・ さまざまな障害を持つ子どもの支援は、担任一人ではどうしても負担が大きくなり、緻密な支援がしきれない事が多いので、特に入園当初は複数担任を実践し、日々の保育に対応している。 ・ 個々に違う発達過程を見極めながら、一人一人に対する指導計画を作成する。（言葉の出にくい子ども・多動性・クラスに溶け込みにくいまた遊べない子どもなど） ・ 発達障害を持つ子どもを支援する事が困難になる場合が多々あり、社会の一員としてどう成長させていけばよいかを考える。 ・ 教職員間での意見交換会を月に1回実施。園内での意見をまとめ、その都度変化する状況に対応する。 ・ 家庭との連携を図り、連絡会を密にする。

◎ 「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である